

◆ 授業改善の方策

有識者による分析と考察

☐ 国語の授業改善

北海道教育大学附属函館中学校副校長 黒 田 諭

(元国立教育政策研究所学力調査官・教育課程調査官)

調査結果から見られる特徴的な成果と課題

◇...成果 ◆...課題

- ◇ 文学的な文章を取り扱った問題において、集めた材料を整理したり文章の内容や形式について精査・解釈したりすること。
- ◆ 目的に沿って記述の仕方を工夫し、自分の考えが伝わる文章にすること。

調査結果の分析内容

○ 調査問題を解く際の留意点

全国学力・学習状況調査の国語の多くの調査問題には、実際の言語活動を想定した場面や状況が設定されていますが、それらの把握が不十分なまま解答している傾向が一部で見られます。問題を解く際には、「言語活動の目的は何か」「どのような場面や状況なのか」「解答として求められているのは何か」を十分に把握する必要があります。

○ 小学校の結果の分析

小学校²では、学校のよさを伝える文章を書く場面設定の中で、自分の考えが伝わるように事実と感想、意見とを区別して文章を書くことを求めています。結果を見ると、情報として示された事実を取り上げることはできているものの、文章を書く目的である「学校のよさ」（たてわり遊びのよさ）について考えたことを書くことができていないもの（解答類型4）が目立ちます。指導事項は第5学年及び第6学年「B書くこと」ウです。この「考えの形成、記述」に係る指導事項の定着については、小・中学校ともに経年的に見られる本道の課題の一つです。

○ 中学校の結果の分析

中学校3四では、物語を創作する場面設定の中で、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することを求めています。結果を見ると、表現を工夫して書くことはできているものの、「『僕』の心情を伝えるために工夫して書く」という場面に沿った表現の効果を書くことができていないもの（解答類型2）が目立ちます。指導事項は第2学年「B書くこと」ウで、やはり課題が見られます。

3 佐藤さんは、国語の時間に、「体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く」という学習に取り組んでいます。次は、佐藤さんが構想をまとめた「フートの一部」と「物語の下書き」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。（フートの一部）及び「物語の下書き」の①から④は、場面の番号を表します。）

フートの一部

（登場人物の設定）

- ・「僕」……紙の詩書。語り手。
- ・「君」……紙の詩書の持ち主（中学生）。

（もとにする体裁）

小学生のとき、紙の詩書を親に買ってもらった。

使い始めは順順と紙の詩書の引き方がよくて面白かった。

・最近はおうライン詩書ばかり使っている。

・紙の詩書を久しぶりに使った。

（詩語を通して伝えたいこと）

紙の詩書を久しぶりに使って、気付いたこと。

（各場面で伝えたい「僕」の心情）

- ① 出番のない寂しさ。
- ② 忘れられるかもしれない不安。
- ③ 久しぶりの出番で感じた喜び。
- ④ 次の出番への期待。

物語の下書き

- ① あの日も僕は、君の部屋の本棚の隅でじっと待っていた。ほごりだらけになりながら、中学生になつてから、君はオンライン詩書を使うようになった。以前はくろく印を付けたたり、書き込みをしたりしてくれたり。君との距離は、すいぶん遠くなつてしまつた。
- ② インターネットだと、複数の詩書にアクセスできるから、タブンし、端末だけを持ち運ばない。単語のさだめ方すれば、すいぶん知りたことを教えることができる。かきばらないし、君にとっては、とても便利なのだから、僕など、このまま居られてしまつてくれ。
- ③ そう考えたとき、君は僕を手にとつた。学校にタブンと置いてきたのだから。久しぶりだったから、僕はぐちゃぐちゃ、君はほごりで大きなくちやみをしめた。ほごりだらけの僕を顔をかめたけれど、何度もべっを繰つては、いろいろな言葉の意味を調べた。当然、いつかは時間がかたつていく。調べなければならぬ言葉を引きとて、近くにある言葉にも線をひき、意味を確認する。君の意味が終つても、僕は僕をいつもの場所に戻さなかつた。しらなくべっを繰り、小学生のときに印を付けた言葉や書き込みを言葉を読み返していた。君はみたりたりと表情をしていた。僕は自分が認められたような気がした。
- ④ あの日から数日が過ぎた。

「令和6年度中学校第3学年国語③」

国語科の授業改善に向けて

○ 「B書くこと」の「考えの形成、記述」に係る各学年の指導事項の再確認

各学年の指導事項については、基本的に当該学年になって一から指導するものではなく、前の学年までの指導を踏まえたものになります。小学校第1学年から系統的・段階的に上の学年につながっていくものであることを、各学年の指導時に意識することが大切です。その上で、資質・能力の定着に課題が見られる場合には、同じ単元の中で補ったり、別の単元で再び取り上げて指導したりすることが重要です。その際、前述の本道の児童生徒の課題を踏まえ、次のような観点を示して指導することも考えられます。

- 1) 書いている内容は、設定している言語活動の目的や場面、状況に合っているか。
- 2) 想定している読み手に伝わる書き方になっているか。
- 3) 自分の考えが具体的に表現できているか。

特に3)に関わって、自分の考えを「具体的に」表現することを苦手としている児童生徒が多いことから、例えば、次のような観点を追加して指導することも効果的です。

- ・資料等からの引用のみでなく、自分なりの言葉が含まれているか。
- ・「よい」「すごい」などの短い言葉のみでなく、「どのようによいのか」「どのようにすごいのか」などを書くことができているか。

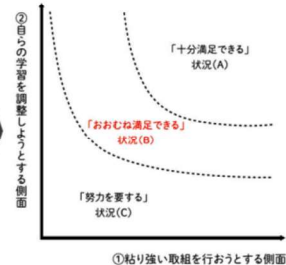
○ 「主体的に学習に取り組む態度」に着目した指導と評価の一体化

記述式の問題では、小学校³や中学校³四など、無解答率の高いものがあります。一概には言えませんが、この中には途中で解答を諦めた児童生徒がいることも考えられます。本調査のみならず、日頃の学習においても課題に粘り強く取り組む姿が求められます。授業では、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」等を参考にしながら、内容のまとめりと「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を作成することが大切です。その上で、1人1台端末を活用するなどして蓄積した学習の履歴を、児童生徒自身が、自らの学びを見通したり振り返ったりするために活用できるように指導することも重要です。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行うと、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（小学校国語）P10

まとめ

○ 「考えの形成、記述」に係る指導事項の確実な定着を図りましょう！

言語活動の目的や場面を意識しながら、自分の考えを「具体的に」書く指導を繰り返し行いましょう。学年間・学校種間の指導事項の系統性については、令和4年度の北海道版結果報告書P10とP11、「B書くこと」ウの定着に係る課題については、令和5年度の北海道版結果報告書P5とP6でも取り上げているので、併せて参考にしてください。

○ 「主体的に学習に取り組む態度」を育成しましょう！

内容のまとめりと到達すべきゴールを設定し、ゴールまでの道のりのどの位置に自分が立っているのかを、見通したり振り返ったりする場面を設定しましょう。そして、次の一步を踏み出す際の学習の方法や内容等を児童生徒自身が考えることができるような指導も工夫してみましょう。

